

科目名	地域フィールドスタディ Business Field Research		選択	2 単位
学期・曜日・時限	春・月・4 限	春・月・5 限	-	-
担当教員名	宮島 敏郎	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>学生が主体的に新潟の起業事例や優れた企業経営について、あるいは事業創造に必要な調査や研究を行うことを中心とした科目である。そうした調査や研究の手法として有効なフィールドワークの技法を伝授すると共に、実際に講義内においてその実践と結果の討議を行う。従って本科目では取り組むテーマを履修者自身が決め、個人あるいはグループで企業や現場に出向いてインタビューしたり参与観察を行ったりして、フィールドワークを主体とした調査や研究を行う。</p> <p><到達目標></p> <p>このような調査・研究・ディスカッションを通じて、起業志望者や企業人に求められる自律的な能力を身につけることを目的とする。すなわち、意義ある問題設定能力、問題を掘り下げるための調査・研究能力、問題の解決策を生み出す能力の三つである。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本科目で求められるのは、文献リサーチを行ったり過去の情報や理論から演繹的に答えを求めたりする姿勢ではない。自ら現場に出向き観察や聞き取りによって得た1次情報から、帰納的にあるいはアブダクションを駆使した思考により答えを得ようとする姿勢である。そのためにデザイン思考やジョブ理論など、フィールドワークの意義を教える手法や理論も講義する。履修生はフィールドワークや情報収集によって得た調査・研究の内容を逐次講義でレポート、全員でディスカッションする。</p>				
<p><講義計画></p> <p>1 回目：<フィールドスタディ概論①></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：フィールドワークの基本的な技法・作法と、意義あるテーマの選び方について説明する。 <p>2 回目：<フィールドスタディ概論②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：インタビューのやり方、参与観察、仮説の立て方、漸次構造化法などについて説明する。 <p>3 回目：<フィールドワークのテーマの検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：各履修者がインタビューや観察などのフィールドワークで研究するテーマについてミニプレゼンし、その意義や論点を履修者全員でディスカッションする。 <p>4 回目：<行動観察とイノベーション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：顧客の行動観察により新たな価値を見だし土俵そのものを創りなおすのが、リフレームによるイノベーションである。その考え方や手法をジョハリの窓などを使って講義する。 <p>5 回目：<研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。 <p>6 回目：<センスメイキング（エスノグラフィーが描き出す顧客の真の姿）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：変化が激しく複雑化する社会においてイノベーティブな経営をしていく上でその役割が注目されている、行動観察などによるセンスメイキングについて講義する。 <p>7 回目：<研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション></p> <ul style="list-style-type: none"> ・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。 				

8 回目：＜デザイン思考＞

・要点：行動観察によるインプットをコンセプトに昇華させアウトプットにつなげ、イノベーションを創出する手法として注目を集めるデザイン思考の手法について講義する。

9 週目：＜研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション＞

・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。

10 週目：＜ジョブ理論＞

・要点：顧客が苦勞している「片づけるべきジョブ」がなにかを理解すればその解決策としてのイノベーションを生み出せるとする、クリステンセンが打ち出したジョブ理論を講義する。

11 週目：＜研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション＞

・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。

12 週目：＜イノベータの DNA＞

・要点：革新的イノベーションを起こした企業家にクリステンセンがインタビューし、イノベーションを起こす「関連づけ思考」を刺激するスキルを解明した。その研究内容について講義する。

13 週目：＜研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション＞

・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。

14 週目：＜研究テーマの調査内容の中間報告とディスカッション＞

・要点：各履修者がそれぞれの調査・研究の進捗状況を報告し、履修者全員でディスカッションする。

15 週目：＜最終プレゼンテーション＞

・要点：フィールドワークによる成果をパワーポイントでまとめ、プレゼンテーションを行う。

＜講義の進め方＞

おおむね 2 回に 1 回の割合でフィールドワークの中間報告を行ってもらおう。それ以外の回はフィールドワークの理解と実践に資する論文等を教材として用いるが、その際には課題を課す。

＜準備学習内容＞

テキストの事前精読とプレゼン資料の作成にそれぞれ 2 時間相当の予習・復習が必要である。

＜教科書及び教材＞

使用する講義資料は前の講義の終了時に配付する。

＜参考書＞

『創造的論文の書き方』伊丹敬之著、有斐閣

『聞き取りの作法』小池和男著、東洋経済新報社

『実践フィールドワーク入門』佐藤郁哉著、有斐閣

『フィールドワークの技法～問いを育てる、仮説をきたえる』佐藤郁哉著、新曜社

『フィールドワーク 増訂版』佐藤郁哉著、新曜社

『デザイン思考と経営戦略』奥出直人著、NTT出版

＜成績評価方法＞

欠席 6 回以上は成績評価しない。期末レポート、毎回の発表、ディスカッションへの参加を 4 : 3 : 3 の割合で評価する。

＜課題等に対するフィードバック方法＞

講義内と SNS サークルでフィードバックを行う。

<履修条件>

聞き取りを中心としたフィールドワークを、講義とは別に主に平日の日中に（1回につき2～3時間程度を要する）最低2～3回は確保することが可能な人。

<DVDによる視聴> 可

<オフィスアワー>

火曜 17:00～20:00。事前にアポイントをとること。

<その他>

学内 SNS を連絡、情報交換ツールとする。